

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 10月4 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4772100048
法人名	社会福祉法人与勝福祉会
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	うるま市勝連南風原4914 (電話) 098-978-1331
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年9月24日

## 【情報提供票より】(H20 年6 月 30 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 10 年 9 月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 1 階建ての 1 階部分
------	------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~25,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費8,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	5 名	要介護4		2 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 89.3 歳	最低	73 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平和病院 諸見里胃腸科内科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本グループホームは本島中部の東海岸側にあり、金武湾を見渡す風光明媚な小高い丘のある特養ホームを中心として同一敷地内に通所介護や訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等の事業所が集約されている環境の中にある。本グループホームは平成10年に開設され、10年となる老舗の施設である。土地柄、離島出身の利用者もおり、故郷訪問等で利用者のニーズに対応している。施設内はゆったりとした雰囲気があり、穏やかに過ごさせているのが表情から伺えた。また、原則利用者は、月1回自宅へ帰宅して家族とのコミュニケーションを深めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の主な改善課題4項目中、2項目については改善されていることが確認できた。経営理念についてホーム独自の理念策定に向けて取り組みをしようとしたがまだ改善には至っていない。今年中には策定したいということなので職員と一緒に取り組んでいただきたい。地域との連携については、地域密着型サービスの趣旨を生かし、積極的なかわわりを検討していただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の方で自己評価を行い、母体法人と職員へ報告し、全体での検討に至らなかったが職員全員で、評価の意義を理解し、議論を深めていただきたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の設置がなされていないため、具体的な取り組みはまだである。早急に設置してさらなるサービスの向上に努めていただきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や苦情は意見箱の設置や家族会を通して意見を聴取している。また、日常的には家族が面会に来た時に職員が家族の意向を聞くよう職員へ周知している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同じ敷地内で行われるミニデイサービスに3カ月に1回、南風原地区出身の利用者を参加させている。また、ハーリー大会が各地域で行われるのでそこへ利用者と一緒に参加している。地域の自治会への加入をするなど地域との付き合いを更に深めていただきたい。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の事業目的は定例会や日々のミーティングで管理者より周知されているがグループホーム独自の理念が策定されていない。	○	グループホーム独自の理念を職員と一緒に作り上げていただきたい。地域密着型サービスは特に地域とのかかわりが重要となっているので理念に反映することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会やミーティング時に事業目的等は管理者により周知されているがグループホーム独自の理念が策定されていないため、共有には至っていない。	○	理念作成後は、管理者・職員が理念について理解を深め、さらなるサービス向上を図ってもらいたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ敷地内にあるデイサービスセンターで地域の元気な高齢者を対象にしたミニデイサービスが行われており、3カ月に1回交流会を持っている。また、与勝地区はハーリーが盛んなところであり、ハーリーの時期になるとドライブを兼ねてハーリー見学をして地域との交流を深めている。	○	地域の自治会への加入をする、また、地域へ積極的に出かけて地域の方を対象にした認知症について講演会を開催するなど地域との付き合いをさらに深める工夫をしていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の定例会で管理者の方から外部評価の意義や結果について説明をしているとのことだが、具体的な改善への取り組みが弱い。		評価で報告された具体的な改善点は、改善計画シートに優先順位をつけて、できるものから改善に取り組んでもらいたい。また、進行状況を定例会で報告し、話し合いを行うことで職員と評価の意義の理解を共有していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置がなされていない。現在、委員の選定を進めており年内に設置・開催を目指しているところである。	○	運営推進会議を今年中に設置する予定である。委員の選定をまず行い、法人本部との協議を早めに行うことを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連携が困難となっている。	○	市町村担当者へは、事業所のほうから「便り」を定期的を送付したり、まつりや敬老会等の案内を送付したりして市町村と接点を持つ工夫をしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「やすらぎの家新聞」の中で、利用者のその時々を日常生活を報告している。また、職員の人事異動等も掲載し周知に努めている。また、家族が面会に来た時に利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が結成されており、家族会を通して家族の意見を聴取して運営に反映させている。また、面会時に家族の意見を聞くよう日頃から職員に周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の方針で同一職場に5年経過した職員は人事異動対象となっている。異動や退職で職員が入れ替わる時は、利用者が新入職員となじみになるまで、夜勤はなじみの職員で対応して利用者の不安を軽減するよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修については、採用時研修等を行っている。また、外部研修についても、職員の研修受講の機会を確保している。職場内研修はなされているが具体的な計画がない。	○	職員を育成するためには、長期的展望に立った職員研修計画の策定と職員の段階に応じた毎年の研修計画を立てて、研修実施にあたってもらいたい。毎日の現場で管理者による指導、助言も大切であることから、職場内研修をさらに充実することを望む。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加入し、情報交換や研修会に参加してサービスの質向上に向けて取り組んでいる。また、うるま市内のグループホームと連携を取って情報交換などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本事業所は、ホーム内で認知症対応型通所介護事業(共用型)を実施しており、利用希望者は通所サービスを利用してもらい、職員や利用者と馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所者全員が女性ということもあり、洗濯物のたたみ、食材の買い出しと一緒に出かけたりするなど本人の生活歴を考慮して一緒に過ごす支えあう関係を持っている。また、地域性から農業に従事していた人いることから菜園で経験を発揮してもらい野菜作り等も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望や意向については、毎日の会話の中から職員がくみ取るように努めている。また、家族の方に尋ねるなど利用者の意向を正確に把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを基に本人、家族の意見等を聴取して本人や家族の意向及び課題が記録されている。担当者会議を開催し、長期目標・短期目標を設定し介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月に1回見直しが行われている。介護計画が前回と同様な場合、見直し検討した月日等の記録がない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能として、認知症対応型通所介護事業を実施して1日3人のデイサービスを利用者と一緒になって行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院する場合、家族に付き添いをお願いしている。家族が付き添えない時やホーム内での状況を説明しなければいけない場合等は職員が付き添って受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本事業所は、看護師が配置されていないため、ホーム利用にあたって事前に重度化した場合や看取りはできない旨説明し了解を取っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については、重要事項説明書、および定例会等で職員に説明し周知を図っている。個人台帳は事務所内の保管庫に外から見えないよう保管し、個々の記録も事務所内で入力するような体制をとっている。トイレが玄関の正面にあるが、利用者によってはドアを開け放しの時がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースがあり、本人の好きなように自由な生活を基本としている。又、日々の会話の中から希望を読み取り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者にとって楽しみのひとつであり、利用者ができることは利用者へ声かけをして野菜の下ごしらえや配膳、食器洗いの手伝いを職員と共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきとなっているが衣服を汚した場合等は、その都度対応している。湯船は設置されているが、好まないということでシャワー浴のみとなっている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内にある菜園の野菜づくり、玄関脇のプランターへの水かけ、洗濯物たたみ、隣接する特養ホーム等へ出かけ職員や利用者の方とおしゃべりをするなどを職員はつかず離れずで見守りつつ一緒に過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当事業所は母体法人の特養ホーム等の関連施設が隣接しており、利用者は特養ホームへ出かけ、おしゃべりをしたり、デイサービスに参加している知人を訪ねたりしている。また、職員と一緒に近くのスーパーへ買い物に出かける利用者もいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関及び居室は施錠されてなく自由に出入りできる。認知症デイサービスが玄関から続く居間で行われており、外出する利用者がいた場合は、すぐ確認できる体制となっている。また、利用者の行動パターンを把握しているため目配りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。緊急時対応のマニュアルは事務所に掲示されているが、電話がある場所には掲示されていない。	○	災害時は、まず、法人本部の方へ電話連絡することとなっているが、火事等の場合、一刻を争うので電話をかけるのではなく、プザーを押すとすぐ連絡ができるよう工夫をしていただきたい。また、第1次連絡先が法人内となっているが消防本部へも同時に連絡できる体制の検討をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については一人ひとりの状況が毎日把握されているが、水分量についての数値の記録がないため、利用者の健康状態の把握について職員の共有が弱くなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央に共用のスペースが配置されている。みんなで過ごしたいときは居間で、一人でゆっくり過ごしたいときは食堂でとその日のペースに合わせて利用されている。また、すぐそばの共用のたたみ間では足を伸ばしてくつろげることもできる。また、玄関周りには季節の草花を配置し季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口のカーテンは季節によって取り換えている。掛け布団やまくらは利用者が使いなれた愛着のあるものを使用してもらっている。		